【教育目標　げんきいっぱい　えがおいっぱい　いきいき表現する子ども】

きらきら

新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和５年２月２８日発行

年少児の成長を支えたもの

園長　青木博子

「電車に乗って」ストーリー

年少児生活発表会が行われ，劇遊び「電車に乗って」を見ていただきました。ご多用の中，大勢の保護者の皆さんにご参観いただきました。本当にありがとうございました。

「電車に乗って」は，一人一人が「なりたい役」になって劇を行う遊びでした。まず，足の速いチーターとかっこいいオスのライオンが登場します。チーターの子どももライオンの子どもも，自分が思い描いた動きや鳴き声を体いっぱいに表現して登場し，電車に乗ります。続いて，ティラノサウルス，トリケラトプス，ゴリラ，ペンギン，ウサギ，小鳥，象，わに，ねこが順番に登場し，みんなが異なる役になって，電車に乗ります。

みんなが電車に乗ったら，次は「〇〇駅」へ出発です。「鬼駅」につくと，子どもたちは鬼に変身して「ガー！」と声を出したり，ドシンドシンと大きく歩いたりなどそこで自分が思い描いた鬼を表現し，楽しく歌ったり踊ったりします。再び駅に戻り，電車に乗って次の駅へ出発です。様々な駅に着きますが，その駅に応じた動作や台詞を子どもたちが自分で考え，工夫しながら表現を楽しむというものでした。

なりきった充実感　楽しかった満足感

私は，何と言っても，一人一人の子どものなりきった表現力にとても感心しました。両手を握りしめながら重心を低くしてユーモラスで力強いゴリラを表現するなど一人一人が思い描いた動きや鳴き声には見入ってしまいました。また，電車遊びでは，はじめは担任が駅名を告げていましたが，そのうち子ども自ら「次は水族館駅に行きたい」など駅を決め，到着するとそこで泳いで楽しむ姿がありました。子どもたちの日々の豊かな遊びそのものが現れていて，自分なりの表現を大勢の前で表出する子どもたちに感激しました。

電車に乗る場面が何度もありましたが，一人一人の場所が決まっていないので，毎回違う場所に座ります。ここでも，空いている場所を自分から探して座ったり，少し自分の体を少しずらして友達が入れる場所を作ったりする姿がありました。また，登場後「見られている」ことに気付きいつもと違うと感じた様子の子どもが，すぐに気持ちを切り替えて，自分の役を楽しむ姿もありました。

劇遊びの終わりに，一人一人が自分の役と名前を発表するその表情には，なりきった充実感，楽しかった満足感が体いっぱいにあふれていました。この姿には，「明日ももっとやりたい」「明日が楽しみ」という子どもの意欲が感じられたのです。

→裏へ

成長を支えたもの

発表会が終わったとき，保護者の皆さんの拍手は鳴りやみませんでした。涙ぐまれている方もいました。子どもたちが退場して閉会になった後，自分の子どもの成長を実感するとともに，ほかのお子さんの成長を実感し，保護者の皆さんが互いに讃え合う姿がありました。「大きな声で強そうに声を出していて，心から楽しそうだった」と我が子への思いを伝えるだけでなく，「あの動き，かっこよかったね。最後まで役になりきってたね」「〇〇ちゃんのあいさつ，よかったわ」など，よかったところやがんばったところを相手の保護者の方に伝え合い，会場は温かな空気に包み込まれていました。

発表会での姿は，入園後の幼稚園生活の中で，子どもが，笑ったり泣いたりしながら積み重ねてきたこと,思うようにいかなくても,気持ちをきり替えて取り組んだことなどの，一つ一つが積み重なっていった，確かな成長のあかしでした。

そして，その姿は，子どもが生まれてから入園するまで，そして現在に至るまでの，保護者の皆さんの深い愛情と子どもへの大きな信頼に支えられて，培われていました。子どもたちを見つめ続けてきたからこそ，その確実な成長が分かるのですね。発表会で躍動する子どもたちを見つめる温かいまなざし，鳴りやまない大きな応援の拍手，そして成長を確かめた末の涙が，この子たちをここまで育ててくださったことに，心から感謝します。